

令和元年度 洛友会東京支部総会

令和元年6月30日(日)
於 学士会館

本総会は、「洛友会東京支部 支部会則」第8条および第9条に基づき開催するものです。

議事次第

- 開会の辞
- 支部長挨拶
- [第一号議案] 平成30年度行事・活動報告
- [第二号議案] 平成30年度決算報告および監査報告
- [第三号議案] 令和元年度の役員／評議員／幹事
- 支部長退任の挨拶
(役員交代)
- 新支部長挨拶
- [第四号議案] 令和元年度行事・活動計画
- [第五号議案] 令和元年度予算計画
- [第六号議案] 洛友会東京支部会則の改正
- [第七号議案] 米寿・喜寿のお祝い
- 閉会の辞

付録1: 洛友会東京支部会則【平成28年6月26日改正】

支部総会終了後、引き続き、本部総会、講演会、懇親会が行われます。

洛友会東京支部ホームページ <http://www.rakuyukai.org/tokyo>
洛友会東京支部メールアドレス webmaster@rakuyukai.org

(ご参考)

京都大学アラムナイホームページ <http://www.alumni.kyoto-u.ac.jp/>

1. 平成30年度行事・活動報告

1.1 支部総会, 講演会, 懇親会

平成 30 年 6 月 24 日(日)、学士会館にて、東京支部総会、講演会及び懇親会を開催しました。本部より荒木幹事長、佐藤事務局長、和田幹事をはじめ多数の来賓をお招きし、42 名の参加をいただき、例年通りの盛会となりました。

【支部総会】

支部総会は山本総務幹事の司会により、午後3時に下村支部長による挨拶で始まりました。

まず、山本総務幹事より平成 29 年度行事・活動報告、竹田会計幹事より決算報告が実施され、承認されました。質疑では会員数減少対策としての若手会員活性化が議題となり、講演会などの場を活用した会員の交流の提案がされました。

次に、平成 30 年度役員として、支部長 得井慶昌(S52)、副支部長 伊東康之(S53)、監事 伊藤八大(S54)、総務幹事 竹田真二(H11)、会計幹事 岩田元希(H12)、庶務幹事 増崎隆彦(H13)、若手交流会幹事 山本輝哉(H10)の就任が承認されました。その後、下村前支部長から退任のご挨拶、得井新支部長から就任のご挨拶がありました。下村前支部長からは 1 年間のご協力へのお礼と、この 1 年間の若手活性化への取り組みの成果として拡大クラス会を4つから8つに増やすことができたこと、引き続き洛友会の発展に貢献したいことを述べられました。得井新支部長からは、今後の抱負を述べられるとともに、若手活性化の対策について今後は卒業 20 年未満の拡大クラス会を構築していない世代への交流が課題であることが述べられました。

続けて、平成 30 年度の活動計画と予算計画の説明があり、承認されました。

最後に、平成 30 年度に喜寿を迎えられた藤原正雄様が紹介され、大きな拍手と共に会場より祝意が表されました。



下村前支部長



得井新支部長

【講演会】

支部総会の後、洛友会本部報告を挟んで、「私の社長卒業論文」と題して、株式会社 野村総合研究所 (NRI) の嶋本正 取締役会長からご講演いただきました。

冒頭に、野村総合研究所の歴史と現在の事業、嶋本様が同社での経験されたことやチャレンジしたことについての紹介がありました。

次に、21世紀に入ってから第四次産業革命として、「情報化」から「デジタル化」への変化についての紹介がありました。従来は企業の経営資源はヒト・モノ・カネを主役とし、情報がそれら3つの資源を効率化・高度化する脇役であった状態から、デジタル化時代において情報は他の経営資源を変革する主役になり、ヒト・モノ・カネは社内の人材、自社設備、金融機関に頼らなくてもよい環境となることの説明がありました。その例として、Uber や Airbnb といった新興企業は情報を活用して従来とは異なる方法でヒト・モノ・カネを調達し、今や時価総額で業界内の有名大企業を上回る存在であることの紹介がありました。

最後に、社長時代から現在に至る取り組みや活動について紹介がありました。具体的には社長時代の取り組みとして①売上や利益を向上させた成長戦略、②持続可能な事業構造への改革、③健全で一体感のある組織にするための意識改革の3点と、心掛けられた心得として①今だけでなく将来を考えると、②全社の総力を結集すること、③成功体験を乗り越えて変えること、④正しい信念で揺るがないこと、⑤社員と意思を共有するために伝えることの5点について、実際に実践されたことや成果も交えながら説明がありました。



嶋本正様



講演会の様子

【懇親会】

午後5時より、恒例の懇親会に移りました。懇親会は、得井新支部長の開会のご挨拶の後、荒木幹事長のご挨拶と乾杯のご発声で始まり、例年通りの幅広い年齢層にわたる多彩な参加者の交流の場となりました。最後に、岩田新会計幹事の音頭により、恒例の「洛友会の歌」および「琵琶湖周航の歌」を全員で合唱し、閉会となりました。



荒木幹事長によるご挨拶



琵琶湖周航の歌の合唱

〔報告〕 会計幹事 岩田 元希(H12 卒)

1. 2 秋の講演会

平成 30 年 11 月 27 日(火)、学士会館にて講演会を開催しました。

今年は、京都大学名誉教授の松波弘之先生に「パワー半導体 SiC の進展 —Crazy boy の歩いた道」と題してご講演いただき、50 名の方にご参加いただきました。

松波先生は、1964 年に京都大学助手に就任されて以来、今日に至るまで、半導体材料の研究に従事されてこられ、その功績により 2001 年 第1回山崎貞一賞、2002 年 文部科学大臣賞など、数多くの賞を受賞されております。昨年には、「シリコンカーバイド(SiC)パワーデバイスの先駆的研究と実用化」への貢献を果たしたとして、本田総一郎氏が設立した本田財団がエコテクノロジーの観点から顕著な業績をあげた個人またはグループに毎年 1 件授与する、本田賞を受賞されました。

冒頭では、世界初のコンピュータ ENIAC からクラウドまで半導体によってもたらされた 20 世紀の ICT イノベーションの歴史や、電気エネルギーへの依存度が高まる情報化社会においてエネルギー利用の節減や電気エネルギー利用の高効率化を通して環境負荷軽減に貢献しているパワー半導体の役割が紹介されました。

次に、パワー半導体のデバイスについては、従来主役だった Si(シリコン)から、Si 50%と C(カーボン) 50%で構成される化合物 SiC(シリコンカーバイド)が急台頭している状況であること、SiC により電気エネルギー利用の高効率化が実現できたことが紹介されました。SiC は、従来の Si に比べ、高電圧(10 倍)、低損失(100 倍)、高周波(10 倍)、高温(3 倍)の条件で動作するメリットがあり、発電から電力消費までの電力フロー内の様々な変換過程において、電力変換と電力消費におけるロスを低減することが期待されています。本講演では、SiC 研究の初期段階や技術的なブレークスルーを達成した際の逸話、および国家プロジェクトが日本の SiC 研究にどう関わってきたのかなど、松波先生の 50 年に亘る SiC 研究の経験談をお話しいただきました。

最後に、今後の展望と課題についてご説明がありました。SiC パワー半導体の応用分野は、車、高速鉄道、データセンター、太陽・燃料電池、照明、発電所など幅広く、革新的な省電力 SiC デバイスを活用することにより、国内だけで原子力発電所数基相当の電力消費を削減でき、グリーンイノベーション実現への寄与や国際競争力の高い新産業分野の創出が期待できます。一方で、2017 年には SiC 関連の国際会議が立ち上がり、SiC はニッチから世界が注目するメインストリームへ変わりつつあり、熾烈なグローバル競争が始まるとの懸念も示されました。

今後は Technology push 型から Market pull 型への思考転換、つまり市場のニーズを理解し技術の実装・応用を進めていくことや、現在日本が先行している本分野で米国は大学院生約 200 人の育成を行っており、国内での若手育成の重要性を提言し、締めくくられました。



松波 弘之 先生



講演会の様子

〔報告〕 会計幹事 岩田 元希 (H12 卒)

1. 3 見学会

寒さが緩み春の足音が聞こえ始めた3月5日(火)、恒例の春の見学会を開催いたしました。本年度の見学は、埼玉県和光市にある理研(国立研究開発法人理化学研究所)和光地区を訪れ、40名の方にご参加いただきました。

渋滞によりバス到着が遅れ、予定より少し遅い 9 時すぎに新宿を出発しました。道中の車内ではマイクを回し、参加者一人一人が自己紹介や近況報告を行い、盛り上がりました。10時すぎに理研に到着しました。理研では、まず加藤重治理事からご挨拶と理研概要についてご説明いただきました。理研が大学を含む国内研究機関の中で1論文あたりの特許引用数が最も多く、社会のイノベーションに貢献していることや大学研究者や異業種企業との連携を目指す取り組みなどをご紹介頂きました。次に「理研の100年と京都大学」と題し、広報室の富田様よりご講演をいただきました。大正11年に発足した研究室制度により京大内に理研の研究室が設置されたことや、京大の木村正路教授が理研の仁科芳雄氏を招き、湯川秀樹氏や朝永振一郎氏との運命的な出会いを果たしたことなど、大正6年の理研設立から現在に至る歴史の中で、理研と京大の関係についてご紹介いただきました。



超電導サイクロトロン



中性子源システム

その後、2つの研究センターより研究内容を事前にご紹介をいただき、見学に移りました。1つ目は新元素「ニホニウム」を発見した仁科加速器研究センターの加速器施設で、史上最強の加速機と呼ばれている超電導リングサイクロトロンを見学しました。同サイクロトロンは総重量8300トン(東京タワーの2倍の重さ)の鉄の塊で、強力な磁力により、原子核を最高で光速の 70%まで加速させてイオンビームを作り、他の原子核と衝突させることで4000種類の原子核を人工的に作り出すことができる装置です。同装置で作り出

されたイオンビームは、アルファ線によるがん治療や稲の品種改良など様々な分野の研究に利用されているとの説明がございました。

2つ目は光量子工学研究センターの中性子工学施設で、中性子源システム(中性子ビーム発生装置)を見学しました。中性子ビームはX線では確認することができないコンクリート内の損傷を透視することができ、橋梁の内部損傷による事故の未然防止への活用が期待されています。一方、従前の装置はサイズが大きく、可搬性がないため、現場での透視撮影ができないことが課題でした。現在開発を進めている装置は、電源も含めてトラックに搭載可能なサイズとなり、橋梁の非破壊検査等への活躍が期待されているとのことです。技術面や法制度面でもまだ課題はありますが、数年後の実用化を目指して研究をされているとのご説明がございました。

その後、理研内広沢クラブに移動し、昼食をとりました。松本紘理事長にご挨拶頂いた後、御膳を堪能しながら、歓談を楽しみました。昼食会場には理研内の売店の仮設コーナーを作っていただき、お土産として理研100周年やニホニウムなどの記念グッズの買い物を楽しみました。



昼食(松本理事長ご挨拶)の様子



集合写真

理化学研究所の見学後、バスに乗って東京都東村山市の豊島屋酒造に移動し、酒蔵見学をしました。まずは豊島屋酒造の歴史をご説明した後、実際にお酒を造っている酒蔵に入り、酒造工程を丁寧に説明頂きました。勉強熱心に説明を聞きかれた参加者の皆様からは、お酒に関する様々な質問が出て、見学は大いに盛り上がりしました。最後に、5種類のお酒の試飲を楽しみました。支部会員のみなさまの親睦を図ることができ、充実した1日を過ごすことができました。その後、バスにて新宿駅まで戻りました。帰り道は途中渋滞もあり、予定より遅い18時到着となりましたが、参加者の皆様のご協力のお陰で、無事解散となりました。



豊島屋の歴史説明の様子



酒蔵内での酒造工程説明の様子

今回の見学にあたり、事前のご準備、当日のご対応をいただいた理研理事長の松本紘様(S42卒)、理事の加藤重治様、広報室、秘書室、研究者の皆様にご感謝申し上げます。

〔報告〕 会計幹事 岩田 元希(H12卒)

1.4 若手交流会

今年度から、H12 年度以降(拡大クラス会未発足の学年)を対象として、京都大学基金室や京都大学同窓会等の開催する交流会・講演会(丸の内交流会等)を積極活用する活動を実施しました。

＜京都大学 丸の内交流会＞

京都大学基金室との連携を実施し、以下3回の講演会・交流会への参加を実施しました。

開催日	講師	テーマ
2018/6/22	京都大学生存圏研究所 教授 篠原 真毅 先生	「大学発日本的イノベーションの進め方」 ～マイクロ波送電研究開発を事例に～
2018/9/21	ポストコンサルティンググループ シ ニア・アドバイザー 御立 尚資 氏	「並存の時代」
2019/1/25	京都大学生存圏研究所 教授 矢野 浩之 先生	「セルロースナノファイバー ～木の国ニッ ポンの資源～」

＜その他＞

S42年卒 間宮様のご協力戴き、科学技術国際交流センター(JISTEC)主催の CST インターナショナルサロンを会員への紹介を行いました。

開催日	講演会・交流会
2019/1/29	第 21 回CSTインターナショナルサロン

1.5 趣味の会

名称	平成30年度幹事
囲碁会	向井 利典(S41卒)、喜多村 滋(S36卒)
麻雀会	船山 眞弘氏(S39修卒)
ゴルフ会	古澤 久具氏(S35卒)、山澤 穰氏(S38卒)、田崎 信氏(S44卒)
洛謡会	村上 薫氏(S36卒)
テニス会	山内 英樹氏(S44卒)、田中 喜男氏(S44卒)、成松 洋氏(S46卒)

入会のご希望、またはお問い合わせがございましたら、以下のアドレスにメールをご送付ください。

- ・囲碁会 igo@rakuyukai.org
- ・麻雀会 mahjong@rakuyukai.org
- ・ゴルフ会 golf@rakuyukai.org
- ・洛謡会 utai@rakuyukai.org (宝生流、観世流の謡会)
- ・テニス会 tennis@rakuyukai.org

●囲碁会活動報告

幹事 向井 利典(S41卒)、喜多村 滋(S36卒)

H30年度は4月、9月および H31年1月の3回、新宿駅南口の「囲碁サロン・天元」で開催した。各回の参加者と成績優秀者は以下の通りであるが、参加人数は漸次減少傾向にある。これは現在の常連参加者の平均年齢が 70 歳代後半となっており、S40 年代後半以降卒の新規参加者がほとんどない状況によるものと考えられるが、一般的な囲碁人口の比率からすれば、これは異常という他ない。新規参加が切望される次第である。

参加者数と成績:

各回の参加者数、成績優秀者(3戦全勝者)は以下の通り(卒年順、敬称略)

◇ 第1回(H30年4月15日)

参加者 17名

優秀者 釜江尚彦(S36卒)、前川則夫(S36卒)、内海一成(H08卒)

◇ 第2回(H30年9月2日)

参加者 14 名
 優秀者 山本英雄 (S38 卒)
 ◇ 第 3 回 (H31 年 1 月 27 日)
 参加者 17 名
 優秀者 西谷卓史 (S48 卒)

運営方式:

対局方式は各自の特点によるハンディキャップ制とし、午後の半日の時間内(原則1時～6時)に対局した最初の3局の成績に応じて賞品(図書カード)を進呈している。時間の許せる人は4局目以降も対局し、結果は次回の特点に反映する方式をとっている。

囲碁会は「気軽に参加し、気楽に楽しむ」ことをモットーに、例会開催日直前での参加や取消しにもフレキシブルに対応し、集合・解散の時間も個々自由にできる、いわゆる「好きな時に来て好きな時に帰る」方式をとっている。現在の参加者の棋力は高段者から級位者まで広く分布しているが、持ち点制のハンディキャップ採用により、どんなに棋力の差があっても対等に対局でき、盤前に対座すれば親子孫ほどの年齢差に関係なく、世代を越えて和やかな雰囲気に対局を楽しむことができるので、興味のある方はどうぞ気軽にご参加いただきたい。なお、まだ仕事が多忙な世代も参加しやすいように日曜日に開催している。

以上(文責:向井記)

●麻雀会活動報告

幹事 船山真弘 (S39修卒)

1 活動状況

平成30年度はこの3年間通り、3回の例会を行いました。いずれの会も4ないし5名参加の1卓開催でしたが、賑々しく、されど勝負は厳しく、無事終了することができました。順位賞及び、会員に人気のバラエティー賞の受賞者は次のとおりでした。

例 会	順位賞		バラエティー賞	
第 111 回 H30.6.2(土) 渋谷雀荘(すずめ荘) 参加者 4 名	優 勝 準優勝 3 位	中田氏 (S38) 石黒氏 (S40) 井沢氏 (S43)	大波賞 小波賞 原点賞 敢闘賞	船山氏 (S39 修) 石黒氏 (S40) 石黒氏 (S40) 船山氏 (S39 修)
第 112 回 H30.9.1(土) 渋谷雀荘(すずめ荘) 参加者 4 名	優 勝 準優勝 3 位	松田氏 (S50) 中田氏 (S38) 井沢氏 (S43)	大波賞 小波賞 原点賞 敢闘賞	松田氏 (S50) 井沢氏 (S43) 中田氏 (S38) 船山氏 (S39 修)
第 113 回 H31.3.2(土) 渋谷雀荘(すずめ荘) 参加者 5 名	優 勝 準優勝 3 位	船山氏 (S39 修) 井沢氏 (S43) 中田氏 (S38)	大波賞 小波賞 原点賞 敢闘賞	廣川氏 (S43) 鷺見氏 (S28 新) 井沢氏 (S43) 中田氏 (S38)

上掲、例会の参加者数は、最初からそれぞれ4、4、5名と少なかったわけではなく、当初の応募者数はそれぞれ、6、5、7名と8名に少し満たない人数でした。それらを4の倍数とするため、出欠未回答者をフォローしたり、ピンチヒッターを探したりしましたがそれでもうまくゆかず、やむを得ず、それぞれ2、1、2名のボランティアの方々の「応募者が4の倍数でない場合は予備員でよい」との、幹事冥利に尽きる、ご高配を生かすことになった結果でした。

2 会員の状況

会員数は昨年度までの3年間、20名で変わりませんが、活動の中心は、確実に若返っているように感じられました。即ち、一昨年度の S38(中田、平澤氏ら)から一昨年度の S40(石黒、肥後氏ら)へ、そして昨年度の S43(井沢、廣川氏ら)や S50(松田氏)へとです。このことが、さらに若い期の新入会員の入会につながることを期待し

て止みません。

3 開催曜日に関するアンケート調査

これまで最近の3年間、例会の開催曜日は第一(土)曜日に固定して実施してきましたが、(土)曜日は自治会の会合などと重なることが多いので他の曜日に変更してはどうかとの意見が出たため、この3月に例会開催希望曜日に関するアンケート調査を実施しました。結果は、回答率53%で、全員が参加できる曜日は一つもありませんでした。但し、第一(土)曜日を除く(土)曜日だけが全員が参加できる曜日であることが判明しました。よって、今後は第一(土)曜日を第三(土)曜日に変更して開催することになりました。これが参加率の向上に貢献することを期待している次第です。

以上

●ゴルフ会活動報告

幹事 古澤久具(S35卒)、山澤 穰(S38卒)、田崎 信(S44卒)

開催日、開催場所、入賞者は以下のとおりです。

- ・ 第136回 平成30年10月24日晴 本厚木 CC 参加者13名、優勝:三木亮爾氏(35卒)、準優勝:初鹿野凱一氏(36卒)、3位:牧之内顕文氏(42卒)
- ・ 第137回 平成31年3月29日曇 本厚木CC 参加者16名、優勝:竹井大輔氏(37卒)、準優勝:曾我正和氏(33卒)、3位:古澤久具氏(35卒)

洛友会ゴルフは春秋年2回開催としており、春は桜の満開時期にあわせて開催日を選んでいきます。秋のゴルフは参加者が13名とここ10年で最低数となり、淋しいコンペとなりました。今年の春は花冷えを象徴するような気温の変化が在り、当日は満開に当りましたが曇り空と寒気のためいまいちの花見ゴルフとなりました。

若い人の参加が少なく参加者の高齢化が進んでいますが、ゴルフはかつてのブーム的盛況から全体のゴルフ人数が減少しており、真にゴルフ愛好者の参加となっております。今回、若手で下間芳樹氏(48卒)が初参加。

少子高齢化社会となって高齢者の健康問題が盛んに話題となっておりますが、有酸素運動の最も身近な運動としてゴルフ場を歩くこと、脳の働きを活性化するスコアカードの利用など、ゴルフのプレーを老化防止に活用されては如何でしょうか。

繰越金の適正化を図るため参加費を1000円としていますので(来年から2000円となります)、出来るだけ多くの人の参加をお待ちしております。

今回プレーを速めるようゴルフ規則が27項目も大幅改正が行われましたので、以下に概要を述べさせていただきます。プレーヤーは40秒以内にストロークを行われなければならない・球の位置に関係なく準備できたプレーヤーからプレーすることを推奨、球を探す時間は5分から3分に短縮、球を動かした明確な証拠がなければプレーヤーが動かす原因となったとは扱わない、2度打ちしても罰はない、ホールに旗を立てたままプレー可能で旗竿に当たっても罰なし、バンカー外に2罰打でドロップ可能、ドロップの方法は膝の高さから行いニヤレストポイントから1クラブレンジ以内に止まらなければならない、リプレースエリアが不明の場合推定してリプレースする。

以上

●洛謡会活動報告

幹事 村上 薫(S36卒)

謡会を3回開催しました。

- 1)第160回洛謡会 平成30年7月16日(月・祝) 於 目黒区勤労福祉会館
曲目: 木賊(観) 天鼓(宝) 紅葉狩(観) 遊行柳(宝)
- 2)第161回洛謡会 平成30年10月8日(月・祝) 於 目黒区勤労福祉会館
曲目: 雲林院(観) 井筒(宝) 土車(観) 融(宝)
- 3)第162回洛謡会 平成31年3月30日(土) 於 目黒区勤労福祉会館

曲目：天鼓(宝) 屋島(観) 歌占(宝) 玉鬘(観)

宝生流と観世流で毎回 2 曲ずつ謡っています。曲により難しさもいろいろですが、舞台となった昔を偲びながら大声を出して、楽しんでおります。

謡のご経験のある方がおられましたら是非ご参加ください。

昭和 44 年に始まる伝統ある古典芸能の会です。以前は謡曲と言えば紳士の教養でしたが、大先輩が次々と亡くなり寂しい限りです。火を消さぬよう続けてゆきたいと思っています。

以上

●テニス会活動報告

幹事 山内 英樹(S44 卒)、田中 喜男(S44 卒)、成松 洋(S46 卒)(文責)

洛友会東京支部テニス会は、開始より半世紀近くの活動を継続してきました。昭和 50 年代からほぼ毎月 1 回の頻度で週末あるいは祝祭日での例会開催を実施しています。平成 30 年度はこの目標を上回る 16 回が計画されましたが、雨天中止や参加者不足により実際の開催は 9 回となりました。

通常の活動拠点は東京インター(用賀)近くにある砧公園や NHK 技術研究所に隣接の大蔵第二運動場ですが、それに加え、八王子において戸吹・上柚木や富士森公園などのコート確保も試み 6 回計画されましたが、参加者が少なく残念ながら開催は 1 回に留まりました。八王子での参加者希望者ももっと増える事を期待しています。事実、関東圏の広範囲の会員諸氏が参加されており、例えば、東は東京墨田区、西は横浜からの参加者も居られます。

毎回 2 時間、幅広い年代の皆さんでダブルスのゲームを行っています。しばしば奥様・ご友人の参加もあり、楽しく賑やかに健康な汗をかいています。テニスの後、時間が許せば懇親会を兼ねた昼食会を持つこともあります。

これからも引き続き、楽しいテニス会を継続していきたいと願っています。初心者の方も大歓迎ですので、少しでも体を動かすことに興味をお持ちの皆様、そして勿論腕に自信のある方も、ぜひ幹事までご一報くださるよう、お待ちしております。

回	開催日			参加人数	開催場所
1	平成 30 年	5 月 4 日	(金祝)	7 名	世田谷区大蔵第二運動場
2		7 月 7 日	(土)	4 名	世田谷区大蔵第二運動場
3		7 月 15 日	(日)	5 名	世田谷区大蔵第二運動場
4		9 月 8 日	(土)	6 名	八王子戸吹スポーツ公園
5		9 月 24 日	(月祝)	6 名	世田谷区大蔵第二運動場
6		11 月 23 日	(金祝)	6 名	世田谷区大蔵第二運動場
7		12 月 24 日	(月祝)	6 名	世田谷区大蔵第二運動場
8	平成 31 年	2 月 17 日	(日)	7 名	世田谷区大蔵第二運動場
9		3 月 31 日	(日)	7 名	世田谷区大蔵第二運動場

以上

1. 6 拡大クラス会

名称	平成30年度 幹事
京極会[S35～S39卒]	村上 薫(S36)

洛粹会[S40～S44卒]	松本 慎二(S40)
洛談会[S45～S49卒]	逢坂 福信(S45) 高重 哲夫(S46)
洛笑会[S50～S54卒]	伊東 康之(S53)
喜洛会[S55～S59卒]	濱野 宏(S55)
洛泡会[S60～H1卒]	田村 俊之(S60)
洛成会[H2～H6卒]	中原 智勇(H2)
百万遍会[H7～H11卒]	福原 忠行(H9)

●京極会[S35～S39卒]

幹事 村上 薫(S36)

第25回京極会が、平成30年11月16日(金)午前11時から学士会館301号室に昭和36年卒の初鹿野氏を講師に迎えて開催された。

講演のテーマは「細胞の世界の自動化～がん免疫治療の実用化に向けて～」で、人間の免疫細胞のうち免疫力の強い細胞を細胞1個レベルで選択し、それを培養器に入れて増殖させ、元の体の戻そうとする試みで、非常に興味のあるものであった。講師は定年後、「何か夢のある仕事をしよう」と考え、アメリカのベンチャー企業に参画したとのことであった。引退後、支援しているこの企業は現在約100人が在籍しており、その60%が博士号取得者である。

このようなベンチャー企業を育成しようとするアメリカ社会の懐の深さを痛切に感じさせた講演であった。講演後昼食・懇親会が行われた。出席者は21名であった。(太田)

以上は太田忠一氏による開催報告です。このほか京極会では年 2 回親睦のゴルフコンペを開催しています。昨年はいずれも津久井湖ゴルフ倶楽部で行い、下記の方が入賞されました。

- ① 平成 30 年 4 月 23 日 優勝 三木亮爾、準優勝 向井幸男
- ② 平成 30 年 11 月 12 日 優勝 川本幸雄、準優勝 竹中理

以上

●洛粹会[S40～S44卒]

幹事 松本 慎二(S40)

洛友会(京都大学工学部電気系三学科の全体の同窓会)東京支部の昭和40年～44年卒業生で構成される拡大クラス会<愛称:洛粹会>は、平成20年に、昭和40年卒業年次が幹事となり、第1回の会合が開催されました。実施内容は、南極越冬隊長を勤めた江尻全機さんの、オーロラ現象についての講演でした。

平成30年の洛粹会は11月22日(木曜日)午前9時15分～12時45分(3時間半、前後15分づつは会場準備と片付けに使用)、京都大学東京オフィスの大会議室 B で開催されました。品川の旧オフィスから東京駅丸の内側の新丸ビルに2016年4月1日に移転した新しい京都大学東京オフィスは、まだ、十分に認知されていない状況を勘案して、今後の新東京オフィスの利用の促進に多少でも役立てたいとの意図もあり、会場に選定しました。

今回の洛粹会は、40年次の石黒公さんが、約15年にわたり個人的に研究を重ねて来た日本の古代史を、「古代の奈良を考える ―なぜ奈良に出雲の神が多いのか― 」との演題で、A4用紙37ページ纏められた資料を使って、1時間半講演しました。質疑応答に移ると、講演内容に興味を持たれた参加者が多く、多数の質疑が続いたので、講演を一時中断し、昼食会に移りました。昼食会は、同一会場の机を並べ直して、各年次毎に集まるように配置して、特別詠えの弁当とお茶及び各人の好みに合わせた各種飲料(アルコール飲料、ノンアルコール飲料)が準備され、食事をしながら、会員と石黒講師との間で多数の質問応答が続いたが、会場の

借用時間の到来で残念ながら、残余の質問を割愛し、会場の清掃・現状復帰の作業を15分間実施し、平成30年の洛粋会をお開きとした。

今回の催しには、総数32名(40年次:9名、41年次:9名、42年次:6名、43年次:4名、44年次:4名)と過去の洛粋会の中では比較的多くの会員が参加し、年長の年次の参加が多かった。

なお、洛粋会が終了解散した後も、当日の参加者から、講演者にメールで質問があり、数次のやりとりが行われる程、講演の内容に興味を抱かれた会員や、講演に刺激を受けて、古代史の本を購入して読み始めたとメールで連絡を頂いた会員も居ました。

内容が重厚であったのに対して、講演と質疑の時間のバランスが若干不十分だったことを幹事としては反省しておりますが、それだけ、石黒公講師の講演内容が、参加の会員の琴線に触れたということではないかと推測し、安堵しております。



以上

●洛談会[S45～S49卒]

幹事 逢坂 福信(S45)、高重 哲夫(S46)

2018年10月10日(水)に開催しました。今回は、JR東日本が2017年11月に埼京線(池袋・大宮間)に導入しました無線式列車制御システム(ATACS)について、JR東日本電気ネットワーク部の伊藤さんに講演していただきました。ATACSの目的は、車上安全性・安定性の向上、地上設備のスリム化、踏切警報化の最適化を図ったもので、今まで、列車検知や列車制御に、軌道回路と称するレールを使用していたものから無線を使用したものに変更することで、前記の目的を達成したのだそうです。開発開始から実用化まで25年以上もかかったこと、今後の首都圏の線区に順次導入していく予定だということ、など興味深い話を聞くことができました。

懇親会は、場所を変えて、新宿駅南口から徒歩数分のイタリアンレストラン「ADD HABIT」を借り切って行いました。講演会に出席できなかった2人も含め32名が参加しました。

塩見さん(S45 卒)の開会挨拶、乾杯に引き続き、にぎやかな懇親会が始まりました。その後、各学年から代表が、病気回復のこと、趣味のことなどを紹介しました。

懇親会の最後には、ハーモニカにより恒例の「琵琶湖周航の歌」を斉唱し、集合写真を撮り、次回幹事の杉山さん(S47 卒)の閉会挨拶で締めくくりました。次回の幹事は、杉山さん、蓮池さん(S48 卒)です。



以上

●洛笑会[S50～S54卒]

幹事 伊東 康之(S53)

令和元年 5 月 22 日 19-21 時 於:学士会館

爽やかながら初夏を思わせる気温の中、21 名の参加を得て開催しました。

喉も乾き、定刻前から五月雨で飲み始めてしまいました。

40 年近くを経て初めて参加する人もあり、残念ながら欠席されたメンバーからのメッセージも配布し、一言の挨拶がどんどん長くなり、懇談以外特段の企画のない会合でしたが、あっという間の楽しい時間が流れました。



●喜洛会[S55～S59卒]

幹事 濱野 宏(S55)

桜の花がほころび始めた3月26日に、洛友会東京支部 S55-S59 拡大クラス会「喜洛会」の第1回同窓会を学士会館にて開催しました。京都大学大学院情報学研究科教授で、また洛友会本部幹事も担当しておられる守倉正博先生(S54 卒、S56 修了)をお迎えし、「京都大学 電気系学生の教育、研究の変遷について」と題して記念講演をいただき、卒業から 35 年以上が経って様変わりする京都大学工学部電気系教室の現状をご紹介します。また、喜洛会結成にご指導、ご尽力をいただいた東京支部長の得井様にもご参加いただき、ご祝辞を頂戴しました。

17 名の参加者を迎え、疎遠であった旧友と旧知を深め、また近況など和気藹々と語らい合うことができて、皆様おおいに盛り上がりました。年度末で皆様お忙しい時期のため、ご参加いただけなかった方も多く残念でしたが、何とか「平成」の最後に第 1 回目を開催でき、たいへん意義のある会となりました。懐かしく楽しい語らいの時間も瞬く間に過ぎ、次回また再会できることを期して、琵琶湖就航の歌で散会となりました。



●洛泡会[S60～H1 卒]

幹事 田村 俊之(S60)

東京支部長以下役員の強力なご支援により、S60 年次から H1 年次までの洛友会東京支部会員の拡大クラス会が発足しました。S61 年中村、S62 年大矢、S63 年水本、H1 年菅谷に田村を加えた学年幹事 5 名で事前に相談した結果、日本経済がまさにバブルに突入しつつある頃に卒業を迎えた年次であることを踏まえ、会の名称は「洛泡会」としました。

洛泡会第1回会合は 2018 年 11 月 9 日に大手町のオフィス街にあるブラッセルズ(ビアパブ)で立食形式で開催しました。18 名が参加し、学生時代の思い出や、現在の仕事の紹介などの話を咲かせました。年次をまたがることもあり、初対面や卒業以来の再会となる場合も多く、新たな出会いに刺激を受けた会となりました。企業等の要職で現役で活動している世代であることから、開催のタイミングは工夫が必要であるものの、今後も毎年活動が続けていくことを約束して、結成式はお開きとなりました。



●洛成会[H2～H6卒]

幹事 中原 智勇 (H2)

はじめまして。H30 年度より拡大クラス会に参加させていただくこととなった洛成会です。
会名は、平成卒だけの会員からなる最初の拡大クラス会ということで「洛成会」決めました。
2019年1月に遅まきながら、発足を開催しました。現状はまだ、会の拡大を目指して会員への声かけをしている段階で、幹事経験者以外の会員の参加は2名、今後徐々に拡大していく所存です。
本格的な活動には至っておりませんが、長い目で活動を見守っていただければと思います。
今後ともよろしくお願いいたします。



●百万遍会[H7～H11卒]

幹事 福原 忠行 (H9)

3月20日(水)19時、新丸の内ビルディング内 SO TIRED で百万遍会を開催しました。参加者は5名でした。
20年ぶりに再会する場面もあり、昔話と現在の仕事の状況に関して話合い、にぎやかな会になりました。2時間だけの1次会だけでは話が尽きず、全員参加で2次会に突入しました。

年代的に仕事が忙しく、次回は比較的手の空いているであろう時期に開催しようとの意見が出ました。
次回幹事は山本 輝哉さんです。



1. 7 幹事会

日時：平成30年5月20日 12:00～16:00

場所：学士会館本館(2階 203 会議室)

議題：

1. 平成29年度決算・行事報告
伊東監事より会計年度の適正化に関する提言があり、平成30年度を暫定期間とし、平成31年度からは4月～3月の会計年度を厳格に守っていくことが承認されました。
2. 平成30年度予算・行事計画
年間予算に関して、ここ数年赤字が続いている状況を説明し、各イベントの補助額を見直し、収支バランスを意識して予算策定していくことが承認されました。また、その際に、ハガキ代の費用が大きな課題として挙げられており、メール連絡を基本とすることが議論されました。
3. その他
会員数の減少に関して、他のOB会と比較して、洛友会の会費が高い点が要因の一つにあるのではないかと指摘がありました。

1. 8 第7回京都大学同窓会東京支部連絡会議および第5回交流会

日時：平成30年4月19日(木)18:30-21:00

場所：学士会館 302 号室

京都大学同窓会との共催で、在京16同窓会22名が参加して表記連絡会議が開催されました。同窓会代表幹事でもある徳賀副学長、代表幹事代理でもある荒木総長特別補佐の来賓挨拶、出席者自己紹介の後、出口連絡会議代表幹事から簡潔に経過報告、会計報告がなされ、主議題である「京都大学未来フォーラム in 東京(仮称)」の企画に関する議論に時間を割きました。種々の意見がありましたが、年度内に京都アカデミアフォーラム(新丸の内ビル内、120名収容)を会場として講演会を実施することが合意されました。

初めての出席で記憶に残ったことは、国内及び国外に各々約30の地域同窓会等の組織化がされていること、個人情報保護法施行後の同窓会名簿壊滅から連絡体制の再構築(京大アラムナイ、KUON等)に努力されていることでした。

20時前からは交流会(懇親会)に移行し、記念撮影などを含め懇親を図りました。

報告：伊東監事(S53)

1. 9 課題への取り組み報告

(1) 登録会員(連絡先が把握できている会員)数向上について

まずは、会員に各種情報を届けるためのメールアドレスの把握・現行化のため、以下の取り組みを実施しました。

- ① 機会あるごとに、洛友会 HP における会員情報変更手順を記載することで、連絡先の現行化を依頼。
- ② 昨年度、新規に発足した4つの拡大クラス会の幹事に(本部のご了解のもと)対象者名簿を提供し、コンタクトを強化。
- ③ 支部長より若い学年のうち、空席、あるいは、連絡が取れなくなっている 7 学年の学年幹事を新たに選出し、全ての学年の学年幹事との連絡体制を整備。

今後、支部役員・学年幹事・拡大クラス会幹事が連携し、当会との関係が疎遠になりがちな(特に、若手)会員に対し、当支部主催のイベントはもちろんのこと、京都大学全学同窓会等が開催する各種イベントの案内等をより多くの会員に届けることとしたい。

(2) 若手活性化施策について

若手交流会について、実施時期・方法等を再精査してきたが、具体的な実施計画の策定に至らず、昨年度に引き続き、実施できませんでした。

なお、様々なイベント情報を若手会員に届ける取り組みを開始しています。

また、卒業して間もない若手会員に、洛友会東京支部の存在そのもの、そして、その活動を認識してもらうため、30 歳前後の会員等を組織化する方法について、検討を進めています。

(3) 全学同窓会活動について

昨年度に引き続き、支部活動のあらゆる機会を捉え、京大アラムナイを紹介するとともに、「京都アカデミアフォーラム in 丸の内」で開催される『【京都大学】丸の内交流会』を案内してきました。

また、東京支部連絡会議に参加し、全学同窓会活動との連携をはかるとともに、その一環として、本年度はじめて開催された東京支部連絡会主催の講演会(平成 30 年 2 月 13 日)に協力し、洛友会東京支部からも 30 名を超える方にご参加いただくことができました。

1. 10 洛友会会報への寄稿

H30 年 7 月号	巻頭言 下村 寛士氏(S51 年卒)
H30 年 10 月号	一般寄稿 梅比良 正弘氏(S53 年卒)
H31 年 4 月号	一般寄稿 横井 省吾(S46 年卒)